

南三陸町

大久保貝塚

三陸の海に生きた縄文人の営み

ヤス
36上面

471
3D

サア
30A



○ 大久保貝塚の調査

遺跡の概要

宮城県は、全国でも有数の貝塚密集地帯として知られ、三陸沿岸ではリアス海岸に沿って縄文時代の貝塚が点在しています。それらの一部は、東日本大震災からの復興事業に伴う発掘調査などで、内容が明らかになってきています。

貝塚は、昔の人が食べた貝や魚、動物などの食べかすが積み重なってできた遺跡です。貝塚では、貝殻の炭酸カルシウムにより酸性の土壌が中和されるため、通常の遺跡では分解されてしまう骨や骨角器がよく残っています。そのため貝塚は、当時の人々の生活を知るための情報の宝庫です。

大久保貝塚は、南三陸町の志津川湾にそそぐ水尻川河口に面した丘陵斜面に位置しています。

震災で被害のあった河川堤防の復旧工事に先立って、令和元年～2年に発掘調査されました。町内での貝塚の本格的な調査は初めてであり、これまで不明なことの多かった南三陸町の縄文時代の生活や、他地域との交流関係を知るうえで重要な成果が得られました。



大久保貝塚の位置と周辺の主な貝塚分布



大久保貝塚遠景（北東から）

貝塚は、西から延びる丘陵東端部の斜面に位置し、北側を水尻川が流れ、東側を国道45号が通っています。現在、遺跡は堤防や山林となっています。



大久保貝塚の時代

図の橙色の部分に該当します。貝塚の年代は、約3,500～2,500年前と考えられます。

発掘調査の方法

見つかった貝層は、東西約 16m、南北約 5m の範囲に広がり、最大で約 75cm の厚さがありました。貝層は、含まれる貝や土の違いから 300 層以上の細かい層に分けることができ、各層について図面や写真による記録作業を行ったうえで、貝や土をすべて回収しました。その量は、土嚢袋 4,468 袋におよび、それらを水洗フルイにかけて、小さな貝・骨・土器・石器もすべて回収しました。



貝層の検出状況（北東から）

		
☑ 層の記録	☑ 土や貝の回収	☑ 水洗フルイがけ

遺跡の移り変わり

遺跡の年代は、縄文時代後期中葉～後葉と、晩期中葉～後葉に分けられます。

縄文時代後期には、大久保貝塚は水辺の平らな場所であり、主に火を使う作業場として利用されていたとみられます。そして晩期には、土砂の崩落などにより斜面となった場所に、貝殻や骨、土器・石器・骨角器などが長期間にわたって捨てられ、大規模な貝層ができました。



貝層の南北断面（東から）



縄文土器（壺）



動物骨（イノシシの下顎）



骨角器（ヤス）

○ 人と動物たち

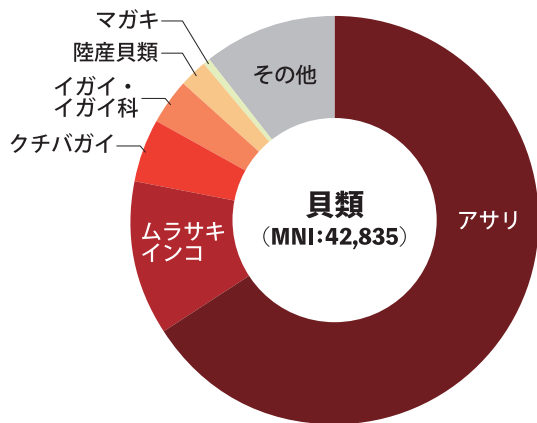
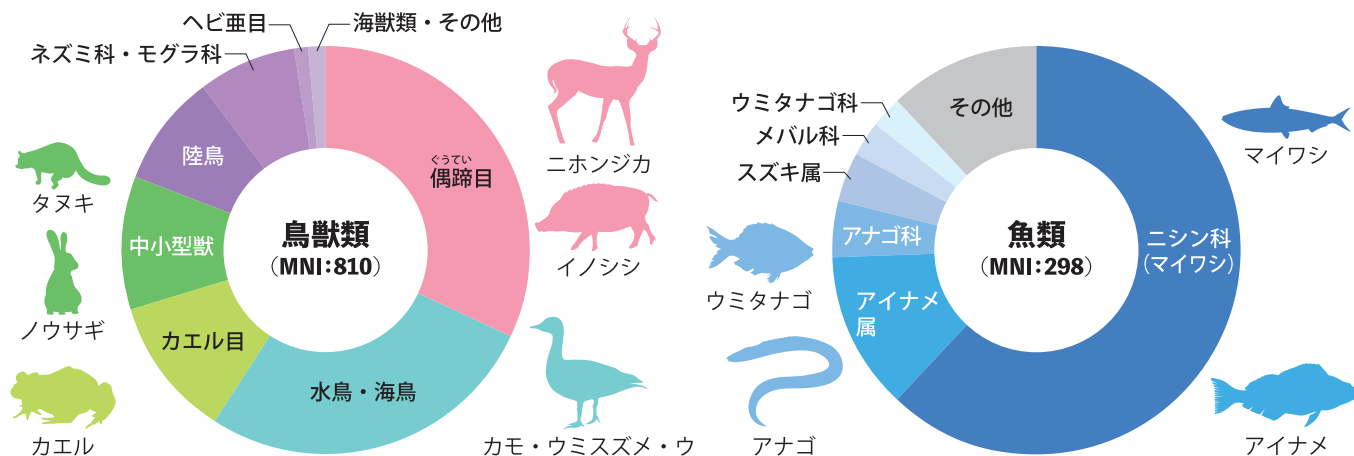
捨て場からみえる食生活

貝塚からは、当時の食生活を示す多量の貝殻、魚や動物の骨が出土しました。貝類は、アサリが最も多く、ムラサキインコ、マガキなどが含まれており、周辺の砂浜・干潟を中心に、岩礁でも貝の採取が活発であったとみられます。魚類には、マイワシなどの小型の回遊魚を中心に、アイナメなど磯に住む魚も含まれ、マグロなど大型の回遊魚もまれに漁獲されたとみられます。鳥獣類は、シカ・イノシシおよびカモ・ウなどの水鳥・海鳥が6割を占め、積極的に捕られていたことが分かりました。そのほか、ノウサギやタヌキ、キジ、カエルなども多く捕られました。



縄文時代晩期の貝層から出土した哺乳類骨

イノシシ・ニホンジカ・オオカミ・イヌ・キツネ・タヌキ・カワウソ・テン・イタチ・ノウサギ・ムササビの頭部骨。



大久保貝塚（縄文時代晩期の貝層）における鳥獣類・魚類・貝類の割合（※）
 （※種の判別を行った骨の数から算出される最小個体数（MNI）による）

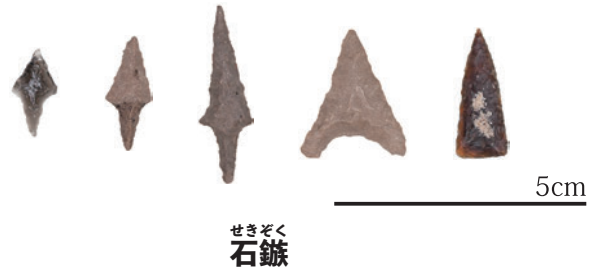
狩り・漁の道具

貝塚からは、狩りや漁に使われたとみられる石器や骨角器が多数出土しています。

石鏃^{せきぞく}は、矢^{もり}や銚^{こくよう}の先端に装着する道具で、黒曜石^{せき}や珪質頁岩^{けいしつげつがん}といった石材^{せきざい}のほか、エイの尾の棘^{とげ}を加工した鏃^{ぞく}も出土しています。

ヤス^{もりがしら}、銚頭^{つりぼり}、釣針^{かえし}などの漁具は、主にシカの角を加工して作られており、獲物に刺さった後に抜けないよう、逆刺^{かえし}がつけられています。

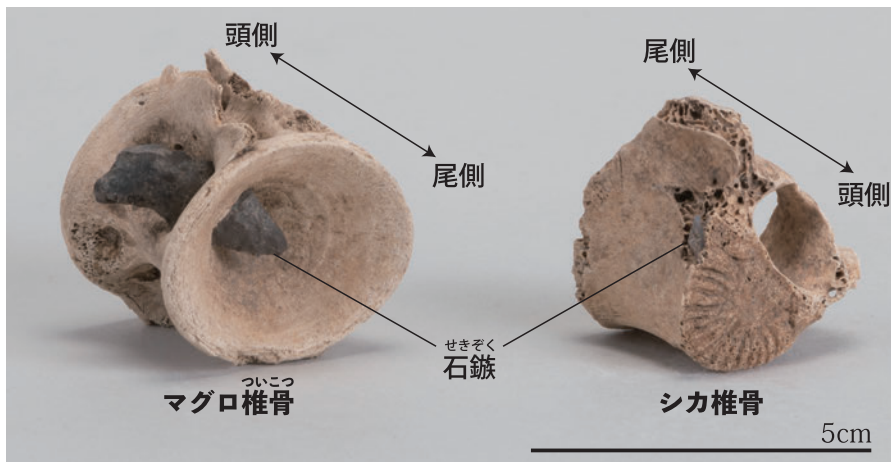
当時の狩りや漁の様子をうかがわせるものとして、石鏃^{せきぞく}が刺さった骨が出土しています。マグロ^{ついでつ}の椎骨^{ついでつ}に刺さった石鏃^{せきぞく}は、銚^{せきぞく}や弓矢^{ついでつ}で左斜め前方から撃ち込まれたものと推定され、全国的にも類例がない貴重な資料です。シカの椎骨^{ついでつ}に刺さった石鏃^{せきぞく}は、弓矢^{ついでつ}で右斜め前方から撃ち込まれ、折れた先端のみが残ったものと推定されます。



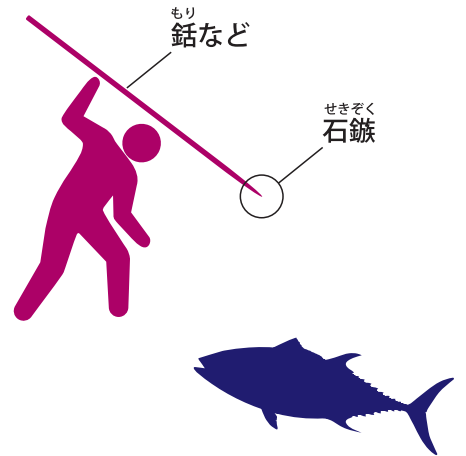
せきぞく
石鏃



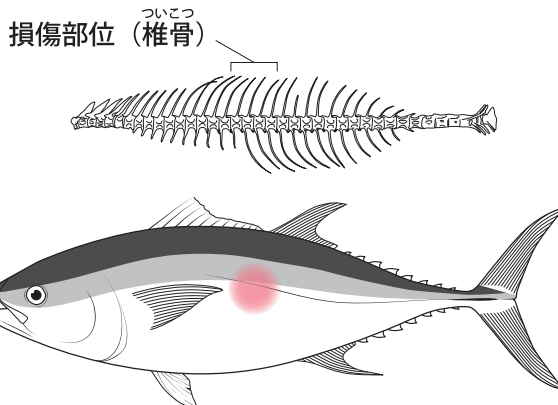
こっかくき
骨角器



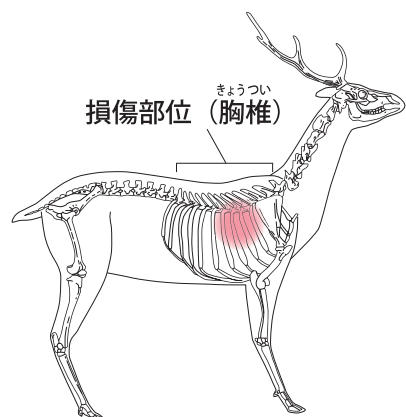
せきぞく
石鏃が刺さったマグロ・シカの椎骨



漁の想定図



せきぞく
損傷部位 (椎骨)



きょうつい
損傷部位 (胸椎)

マグロおよびシカの損傷部位

※マグロ椎骨図：松崎哲也 2019「椎骨の形態比較によるマグロ属同定への試み」『動物考古学』36、pp.1～19、日本動物考古学会 よりトレースして作成。

※シカ骨格図：関根達人 1995「第VI章 出土遺物の分析 6. 動物遺存体」須藤隆（編）『縄文時代晩期貝塚の研究2 中沢目貝塚II』、pp.163～211、東北大学文学部考古学研究会 より再トレース・加筆して作成。

多様な器と装いの道具



縄文土器

縄文土器には、煮炊きに用いられた深鉢や鉢、盛り付け用とみられる浅鉢、貯蔵用とみられる壺などのいくつかの器形がみられます。ほかに、底に台のついた台付鉢や、急須のような注ぎ口ついた注口土器なども少数出土しています。

浅鉢や壺には装飾的な文様が描かれているものも多く、器の表面を線で区画して、縄文を一部磨り消した「雲形文」と呼ばれる文様や、漢字の「工」の字のようにみえる「工字文」と呼ばれる文様がみられます。



装いの道具

大久保貝塚では、装身具も多数出土しています。動物や魚の歯、石、粘土など多様な素材が用いられる垂飾や玉類は、紐を通してペンダントやネックレスのように使われていたと考えられてい

ます。貝殻をくりぬいて作られる腕輪は、様々な貝を素材としており、遠隔地からもたらされたと考えられるものも出土しています。耳飾は土製で、赤い顔料で彩られています。

まつりの道具

日常的に使う道具だけでなく、縄文人の精神文化をうかがわせる、まつりの道具も出土しました。

土偶は、全長5cmほどの小型品と、手のひらサイズほどの大型品があります。大型品は、粘土の貼り付けや細かい線で、顔や体のパーツ、文様が表現されており、赤い顔料が残るものもあります。

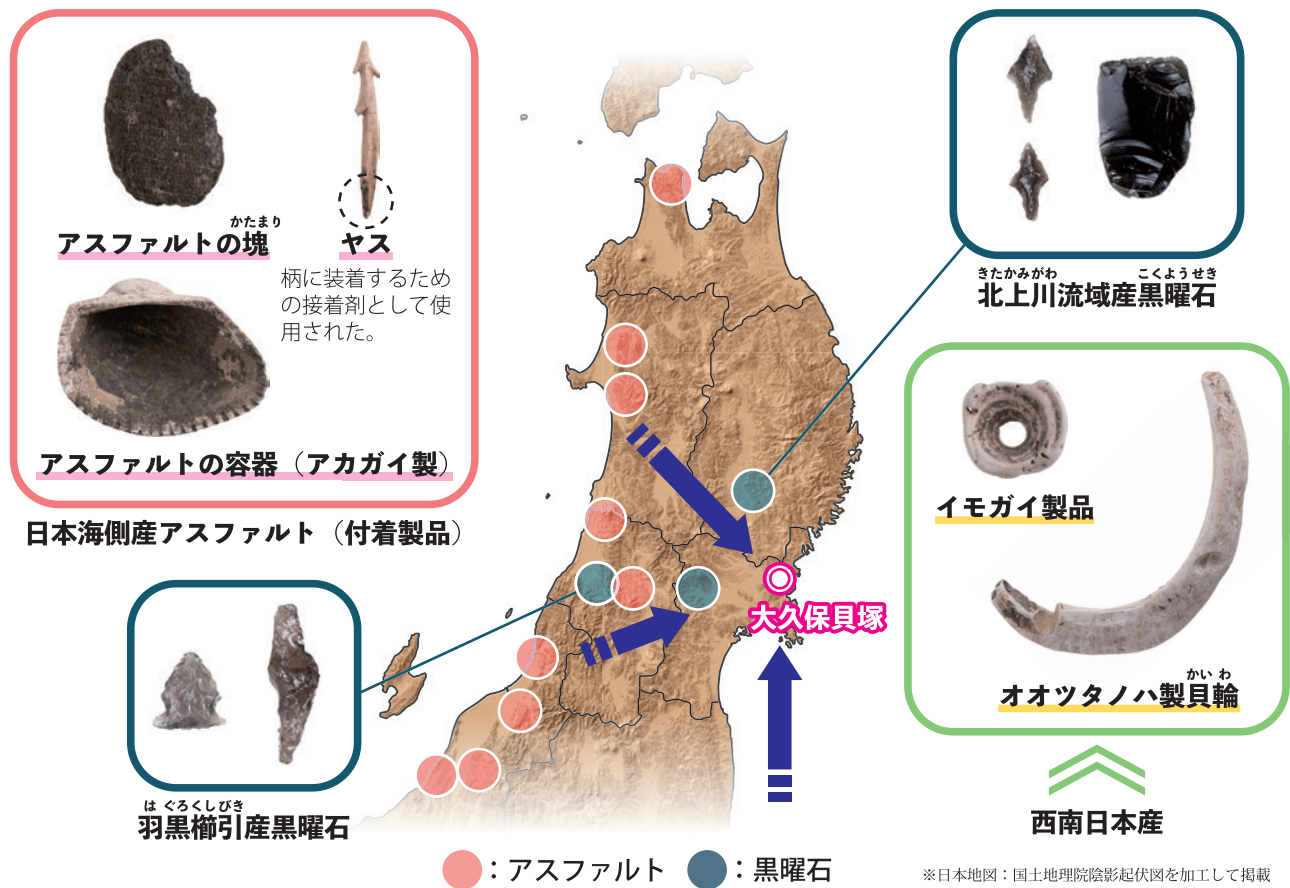
土面は、人の顔ほどのサイズで、隅には紐を通す穴があることから、実際に顔に装着することができたと考えられます。



縄文人の交流

遠隔地からもたらされた素材や製品も出土しています。天然のアスファルトは、日本海側の石油産出地からもたらされたと考えられ、縄文時代では補修材・接着剤として用いられました。石器の素材となる黒曜石は県内産のほか、岩手県南

部や山形県に産出するものもみられます。より遠隔地のものでは、西南日本に分布するイモガイや、伊豆諸島・大隅諸島以南に分布するオオツタノハなどの貝を素材とした貝製品が搬入されており、広い地域とつながっていたことがうかがえます。



◎ 貴重な資料を未来へ

公開活用に向けての取り組み

発掘調査で発見された遺構や遺物は、野外調査や、その後の室内整理で詳細な記録作成や分析の作業が行われ、その成果をまとめて「発掘調査報告書」として刊行されます。

報告書刊行後、出土遺物や記録類は博物館や文化財収蔵施設で保管されます。これらの資料を適切に整理・保管し、公開・活用していくことも、文化財の保護にとってとても重要なことです。



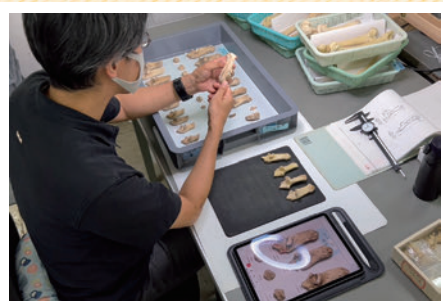
遺物の選別



土器の接合・復元



実測



骨の同定



遺物の梱包・収納



報告書刊行



大久保貝塚出土石鏃解説動画

▶ みやぎ文化財チャンネル

県内の遺跡発掘調査や文化財イベント情報などを分かりやすく紹介している YouTube チャンネルです。発掘作業のリアルな様子や、出土品についての詳しい解説など、さまざまな動画を配信しています。ぜひ、ご覧ください!



みやぎ文化財チャンネルの動画はこちらから!



文化財課 HP /

編集・発行 宮城県教育庁文化財課

令和 8 (2026) 年 3 月

〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目 8 番 1 号 電話 022(211)3684

文化財課ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/bunkazai>

みやぎ文化財チャンネル <https://www.youtube.com/channel/UCRhhv9A-IY3xlWD8qsOLPbQ>



この冊子は 1冊あたり 39.6 円で印刷しています。